

ない。藝術と云ふ言葉を使用して叱られるかも知れないが、復興後樹つ建築物にしろ、橋梁にしろ、吾々の子孫は復興藝術を見、思想文化の尺度ともすることになるであろうから、後世の物笑ひにならんことを、くれぐれも戒めねばならぬ。要するに隅田川に架する六橋は個々別々の様式を執ること

に決して居るのであるから、今更事新しく論議する必要もないのだが、今後これと同じ問題が起つたときの参考として、技術を離れた点から一言述べたのに過ぎない。不幸にして野田技師と同様の觀察を抱かれる技術家があるとしたならば、この拙文に捉はれずその誤りを正されんことを望む。

◎道路及鐵道の政策樹立に就て

長 崎 生

道路會議や鐵道會議は、今回政府の兩政整理の途連れとなりて近く廢止の運命に遭ふと言ふことである。吾人は、實に朝令暮設に驚き入つておる。本年の四月、時の内閣、清浦圭吾氏により色々の調査會を廢し、代ふるに帝國經濟會議なるものが生れて來た。然るに今度の加藤内閣は帝國經濟會議は

賛成相成り兼ねるとありて、道路會議を復活した、引次で、鐵道會議を復活された。然るに、今回、又々之れを廢止せんとするものなりと言ふのであるから驚かざるを得ない。吾人は、今の兩會議が事實充分に活躍しておるとは思はない。併しながら、其の活躍の不充分なるは、制度の悪いからであらふと思ふ。吾人は制度の悪い所は之れを十二分に研究して、以て、善處する様に改むるの可なるを認むるものである。言

葉を換ゆれば、現在の道路會議の加きは、唯路線の認定や變更や局部の改良案の如きものみの末節を諮問することに止めず、本邦の道路政策の根本に就いて所謂積極的の方針を研究審議する様にした。勿論、現在の制度では出来ない。即ち適應の組織に改むるの要がある。

二

現在の本邦の道路の現況は如何、今日自動車の如き文明の利器が漸次増加し來り、如何なる山間でも其の影を見ない所がないと言ふのに、肝心の道路は一向に改良されて居ない。曩に郡制が廢止されない以前は、郡が連年若干づつなりとも不完全ながらも改良を續けて來たが、一朝郡制の廢止は其の大部分はこれを府縣道に昇格せしめたりとするも、其の引受の府縣が一向に其の名のみ府縣道としたのみで、手を付けて居ない。今の如くにして、多くの府縣道を其のままにして措いたなら、道路の改良所か、近き將來には收拾し得ない様な廢類を見るであらふと思ふ。又亞米利加あたりの自動車熱を見んか、一千八百九十三年始めて自動車が出でて以來、一千九百四年には五萬八千臺となり、次で一千九百十四年には百七十萬臺に上り、現在にては優に一億五千萬に上つ

ておると言ふ盛況であるが、斯くの如くにして、交通の發達は國富の増進を招致するものであるがゆゑに、吾が邦に於ても、漸次自動車の利用が彌増すものと見做さなければならぬ。必ずや、事實然るを斷言するに躊躇せぬ。然らば、之れに處する道路の改良について、大に今に於て、方策を樹立し置かねばならぬ。然るに貧弱なる市町村や府縣の財政のみを以て之れに當るが如きでは、到抵完全の歸結を見ることを得ないことは此に更めて論ずるまでもない。吾人は先年決定したる道路公債の基金を以て、政府が須要國縣道其の他都市道の改良費に毎年若干づつ支出し來りしを喜び居りしに、近來緊縮方針に累せられ、大藏省あたりでは此の公債基金より支出する道路改良費を指して冗費の如くに取扱はれおるかの如く見受けられる、のみならず、事實大削減を加へられ、殆ど爲す所がないのにも分る。吾人は斯くの如くにして、吾が路政の前途は何日になりて、眞の光明を見得るやと憂慮するものであると共に、吾人は緊禪一番せざるを得ぬと思ふ此の意味に於て、道路會議の如きを單なる諮問機關に止めず、吾が路政の根基を爲す所の意味深重の根本方策の樹立上につき權威ある研究の爲め善用したいと思ふ。

三

又鐵道會議も同様に考ふるが、最近政府の方針たる改良と建設費の振分け問題について、三派の與黨幹部より、鐵相に肉迫して、建設費の多からしめんと努力しておるとの事なるが、此は吾人と同様の意見を有するもので、改良も大事なるが、建設も尙現時の鐵道網上より見て必要を痛感しておるものである。試みに日本鐵道線の現況を外國の其れに比較せんに、差當り延長に見るも、線路延長哩に付き合衆國の二十四萬九千二百三十一哩の最長より、日本ルーマニア支那等の五千哩以上の順で吾が日本の如きは極めて下位にある。又面積比例に見るに百平方哩當り四八、一哩のベルギーより、英の一九、三哩、吾が日本の二、七哩の順位となりて實に第二十三位となる。又人口との割合に見れば一哩當りクインスランドの一三八人の最少より、メキシコの九二二人、日本の九千四百八十七人、支那の五萬三千七百六十人と云ふが如く下より二番である。が、併し以上の比較を以てのみで日本が外國よりは鐵道が少いとの比較には物足らぬも、其の大勢を觀察するには充分である。斯く觀察して見るときは、吾が日本の鐵道も未だ充分普及しては居ない。否、却々之れから、新に鐵道を布設して、未開の地を開達せねばならぬ所が多いのである。

今此に、試みに鐵道網圖を披ひて現在の既成線と未成線の狀態を見るならば、須要の箇所に鐵道が開けてない所が決して少くない。其れが爲め極めて、迂回の運輸系路を探らねばならぬ所が多く、結局其の運賃が馬鹿に不廉であることに氣を附くならば、決して未成線の完成を不急事業なりと論定することが出来ぬ。殊に吾が日本の現在の狀態にありては、鐵道の本運賃よりも配給上の小運賃がより高價なるの事實が少くないことを考慮せば、可成的鐵道を普及し置くの必要は言ふまでもないことである。

四

然るに仙石鐵道大臣は從來の政府が採り來つた建設を主とし、改良は益金を以てのみ之れを行はんとする所謂改良從主義を逆に行き、改良主建設從なりとの意見を抱懐し居る由なるが、此は余程研究の價値ある問題で、吾人の見解に於ては直ちに首肯を與ふる譯けには行かぬ。勿論、改良も必要であるが、有は無に優るとは言ふまでもないことであるから、自から其の程度問題に歸せざるを得ない。近頃與黨三派の代表者が建設主改良從が正當であるから來十四年度豫算の振分けを適當變更すべしと懇請したと聞知するが、併し仙石氏は、

却々、自家の意見を枉げない様に見受けられる。由來吾が鐵道の方針にありては、其の改良意見については、或は廣軌可なり、否狹軌にすべしとの議論が喧かつたが、今の仙石氏は此の方針を廣軌にするつもりであるか、或は現在のまま狹軌で進んで、要所々々の改良を行はんとするつもりであるかは分らないが、凡そ一國の鐵道政策なるものは、大臣の代る毎に、斯様に變更するものではないと思ふ。若し一大臣の交迭毎に猫の目の様に變化するものなら、到抵何程の金があつても仕方がない、又決して改善が進捗するものでない。

五

此に於て吾人は一國の鐵道政策の根基方針を決定するの要を痛切に感得せねばならぬ。其れには名々意見がある。而して大臣と雖も意見については個人でなければならぬ。仍て吾人は之れが意見決定を衆智によりて決しておくが一番妥當であると信ずる。之れには鐵道會議の如きものを善用することゝが適切であると思ふ。而かも之れを政黨的に移らないよふにするのがよいと思ふ。此によりて鐵道會議の如き零碎の經費によりて、而かも其の効果僅少ならざる機關を廢止するが如きは策の得たものでないと信ずる。今回の行政整理には、何

も彼も止める様にも見受けられるが、併し善用して効果あるべきものまで止めて、一昔前の專制的取扱ひに出でんとすることは、決して時代の趨勢に策應するものでない。然るに今回の兩政整理には與黨三派は何んでも縮少さへすれば謳歌するが如き嫌あるを見受けらるるが、吾人の採らない所であると共に、徒らに目前の小利にのみ眩溺して、吾が黨内閣に迎合するが如き態度に出でらるかの如くに感ぜらるるを遺憾に思ふものである。

吾人は技術者であるの立場もあるが、併しながら本論の如きは決して一方に偏した意見でないと信ずる。政府當局の三省を煩はすと共に識者の輿論に懇へ、與黨三派の細心の注意と研究を望まなければならぬ。

仙石鐵道大臣は所謂工學博士で、吾人の先輩なるも、事實は仲間と見なければならぬが、併し同氏の意見は未だ十分の細い所まで拜聽の機會を得て居らぬから、仔細の批評は此に見合すの止むなきも、吾人は獨斷的よりも多數衆智に依るの可なるを信じて、敢て此に論議するものである。

x
x
x
x
x
x
x
x
x
x